

海洋人間学 2022 年度 成果報告

逗子開成中学校・高等学校 海洋教育委員会

1. 中学3年生「遠泳実習」報告
2. ヨット帆走実習・ヨット製作及び海洋関連講義
3. 2022年度「海洋人間学」×「総合学習」報告

1. 中学3年生「遠泳実習」報告

1-1. 本実習の目的

1. 長距離を泳ぐ事で、水への自信を持たせ、逞しい心と体を育てる。
2. 励ましあって泳ぐ事で、他人への思いやりと協調性を育てる。

1-2. 概要

2022年度7月19日(火)に実施しました。7日に予定していた遠泳大会ですが、海のコンディションが悪く、順延に順延を重ね予備日の最終日にやっと実施することができました。中学1年生、2年生の頃は新型コロナウイルスの影響により本来予定していた授業数を確保することが出来なかったため、中3年生になってから例年より多くの補習を行い、泳力をつけました。また、例年よりも4~5回ほど海での授業の回数を増やし遠泳大会に臨みました。

1-3. 成果

今年度は3団編成で遠泳を行いましたが、各団とも参加した生徒全員が無事に完泳することができました。中には海での授業の際に、一度も泳ぎ切ることが出来なかった生徒もいましたが、本番では大きく遅れることなく完泳することができました。大勢の仲間と一緒に取り組んだこと、お互いに励ましあったことが大きく影響しているのだと思います。

本校には水泳が苦手な生徒も少なからず入学してきますが、中学1年から積み重ねた練習が成果となって表れた一日でした。生徒も水に対して自信が持てたと思います。

1-4. 事前学習

- 中学1年時 6月上旬から週に2回水泳授業 (Team Teaching) ※例年は週に4回
- 中学2年時 6月上旬から週に2回水泳授業 ※例年は週に4回
- 中学3年時 5月下旬よりプールにて水泳授業5~6回
6月上旬より海授業11~12回
プールでの水泳補習 (朝や放課後) 6日間
海での補習 (朝や放課後) 7日間
- 遠泳前実地訓練の実施 (6月29日)

大津波警報が発令された時の対応について、高校水泳部や高校ヨット部の協力のもと避難行動の確認及びレスキュー訓練体制の確認をしました。

1-5. 生徒の声

- ・ 授業での練習がキツくて、なんで逗子開成に来てしまったんだろうと思うこともありましたが、完泳できた時は達成感を感じることが出来て逗子開成に来てよかったと思えました。
- ・ 泳げるようになるまで先生方がとてもしつこくて大変でした。でも、そのおかげで泳げるようになってよかった。
- ・ 海の授業では、ウニを踏んでケガをしたり、目の前にクラゲがいたり、泳いでいる目の前を魚が跳ねたり、いつもと違う海を知ることが出来ました。
- ・ 波の高い日の海はとても怖かったです。でもその経験をしたから凪いでいるときの海を楽しく泳ぐことが出来ました。
- ・ 良い経験が出来たと思いますが、もうやりたくないです。
- ・ 一番沖まで行ったときに浜をみたらとても遠くに来たことを実感しました。一人では来ることが出来なかったと思います。

2. ヨット帆走実習・ヨット製作及び海洋関連講義

2-1. ねらい（目標）

①ヨット帆走実習 **自分でやり遂げる力と協働する力、自然との共生**

本校で実習に使用しているヨットは一人乗りの船として設計されている。ほぼ全員がヨット帆走未経験であるが、生徒は自らの五感を頼りに船を操作し短い時間ではあるが、たった一人で航海を成し遂げる。このことは未知の事象、問題に対して自身でやり遂げる力を育成している。他方、一人乗りの小型ヨットでも陸上では複数の生徒の協力なしでは、移動や準備を行うことはできない。運営補助員として参加するヨット部員も含め他者と協力して行事に参加、運営することで協働する力をも育てている。

他方、どんなに準備を整えても風が吹かなければヨットは帆走することはできない。また、天候が整わなければ実習そのものを行うことはできない。アウトドアでの活動を通じて海の美しさを感じ、人の力ではどうにもならない自然への畏敬の念を抱くことで、かけがえのない自然と共生する意識を学ぶ。

②ヨット制作 **責任と協働、人間の知恵と工夫**

ヨット製作では5隻のヨットを学年全員で分担作業をして製作する。小さなネジ一本でも締め方がいい加減であれば浸水の危険性があり、塗装のひと塗りの失敗が仕上がりを台無しにする。生徒はヨット制作を通じ個人の責任と共同作業の大切さを学んでいる。

本校のヨットはその構造の大部分をサステイナブルな素材である木材を用いて制作されている。作業を通じて石油化学製品が環境に及ぼす影響や森林資源の問題に触れる機会をも提供している。

ヨットそのものが先人から受け継いだ知恵の塊でもある。てこや滑車、揚力の不思議さ等生徒は机上の理論だけでなく実際に体験することで、その面白さや工夫を学んでいる。

③海洋関連講義 海を通じた多様な学び

海洋関連講義の基礎として「帆走理論」、「ロープワーク」、「海の安全知識」、「素材と手工具」、「海の環境」の5つの分野について、中学1年の後期に授業を行っている。いずれの内容も導入レベルの域を出ないが、海やヨットに関連する様々な問題について自分事としてとらえることで、将来の学びで問いを立てるときの糸口やヒントを提供する。

2-2. OPヨット帆走実習

2022年度のヨット帆走実習は、天候の影響で予定日に実施出来たものは少なかった。

2022年度OPヨット帆走実習一覧

No	実施日	学年・クラス	参加生徒数	出艇数	備考
1	4月21日(木)	中2ABCD	160	36	
2	4月25日(月)	中2EFG	121	30	4/22日分の順延
3	9月27日(火)	中1ABCH	138	28	
4	9月29日(木)	中2ABCD	160	36	9/20日分の順延
5	9月30日(金)	中2EFG	121	30	9/21日分の順延
6	10月17日(月)	中3ABCD	144	36	10/6日分の順延
7	10月18日(火)	中3EFG	120	30	10/7日分の順延
8	10月27日(木)	中1DEFG	139	28	9月28日の順延

・実習番号1・2 中2進水式についての概要

中学1年生の後期の技術の授業において、5隻のヨットを制作し3月末に完成、4月末に進水式を行っている。当日はノンアルコールのシャンパンをかけて安全祈願を行うなど生徒は楽しそうに過ごしている。生徒にとっては2回目の帆走実習であり、体力もついていることから多少は余裕を持って帆走に取り組んでいる。4月21日の実習は北東の風、海面はフラットで初心者向けであったが、風が弱すぎたことでかえって難しいコンディションになってしまった。翌22日は荒天の為順延となり25日に実施。朝のうちは無風静穏であったが、予報よりも早く南の風が入り大変順調な帆走となった。

・実習番号3 中1ABCH組

通常はより年長の学年から帆走実習を実施する予定を立てている。これは主として救助能力の慣熟を目的としたものだが、帆走実習は天候次第なので順延になると必ずしも学年順で実施できないこともままある。今回のケースがそれにあたり、初めてヨットに乗る生徒138名が参加した。高校ヨット部員が補助員ということもあり、初心者にとってはやや強めの北東風であったが実施。沈艇3艇。

・実習番号4・5 中2

当初予定よりも約10日遅れたが、2日連続で実施できた。初日は若干の雨模様、風も弱く難しい帆走であった。2日目は風、波とも良好なコンディションで順調に実施できた。

・実習番号 6・7 中 3

順延に次ぐ順延、予報とおりの無風に近い厳しいコンディションで実施。スケジュールに余裕があれば、もっと良い天候で実施したかった。一転して 2 日目は実施判断のあと風が上がり強風コンディション。安全を考慮しレース方法の変更（10 艇ずつ 12 回のスタート）をした。見た目にもわかりやすく、生徒も一生懸命取り組んでいた。

・実習番号 8 中 1

天候が安定せず、学園祭も重なったため約 1 か月の順延。長く待ったかいもあって天候、波、風とも良好で順調な帆走。

□課題ほか

- ・ 実習に対して参加意識の向上が見られた。班ごとに積極的に準備、実習、片付けを行っており、いずれの実習においても遊んでいる生徒は見当たらなかった。
- ・ 基本的な帆走について知識の定着は芳しくない。具体的には簡単な結び方や基本的な乗艇姿勢ができない生徒が散見された。

2-3. OPヨット制作実習

本年度も 2022 年 10 月から 2023 年 3 月にかけて 5 艇のヨットを建造した。これに伴い同じ数の廃棄艇が発生するが、昨年度分と合わせた 10 艇中 6 艇が逗子ヨット協会他に引き取られた。

2-4. 海洋関連講義

本年度も海洋関連講義の基礎として「帆走理論」、「ロープワーク」、「海の安全知識」、「素材と手工具」、「海の環境」の 5 つの分野について、中学 1 年の後期に授業を行った。

本講義内で扱った内容が実際の実習時に活かされていない。具体的には基本的な操作方法とロープワークの定着が十分になされていないことが課題である。今後内容の精選と実施時期の検討を考えていく。

2-5. 特別救助訓練

日時 9 月 14 日（水）13：00～15：00

参加者 教職員 13 名

訓練内容 好天に恵まれたが北東の強風の為訓練内容を変更して実施した。

- ・ 各艇の操船訓練
- ・ 浮標（ブイ）を使用した落水者救助訓練
- ・ その他

※強風の為、沈艇復帰訓練は中止した。

評価と課題点

本年度も多数の教員が受講し真剣に訓練に参加し短時間で効率よくポイントをおさえることができた。教員の安全確保をはかる上でも重要な訓練なので、今後も継続していきたい。

3. 2022 年度「海洋人間学」×「総合学習」報告

3-1. 実施目的

- ① 探究活動を本格的に行う際に必要となる、学校図書館の基本的な使い方を理解する。【知識・技能】
- ② 「(海に関する) 探究テーマを定め」「関連する情報を調べ」「その成果を他者にわかるようまとめる」という、探究活動の基本的な流れを実践し理解する。 【知識・技能・思考・判断・表現】
- ③ (中1) 土曜講座として実現する可能性のある企画を立てることを通し、自身の学びと学校参加が関係することを理解する。【学びに向かう力・人間性】
(中2) ディベートに取り組み、意見を言う力を高めながら、他者の意見を聞き、自分の考えを深める。【意見を言う力・情報を分析する力】
- ④ 今後の学校生活の中で、逗子特有の環境である海を「体験の場」としてだけではなく、「探究の場」としても活用できることを理解する。(学校の特色活用・教育課程特例校)

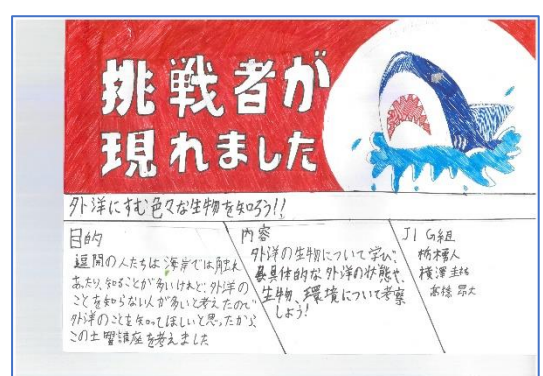
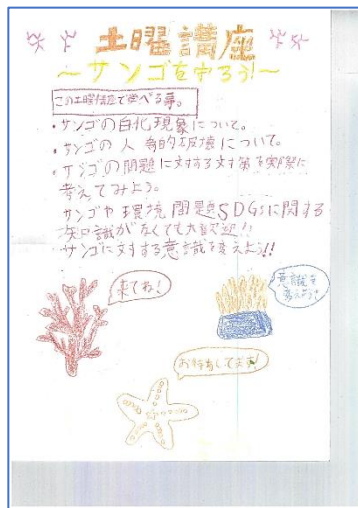
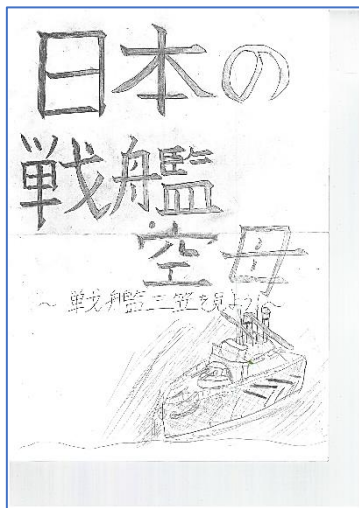
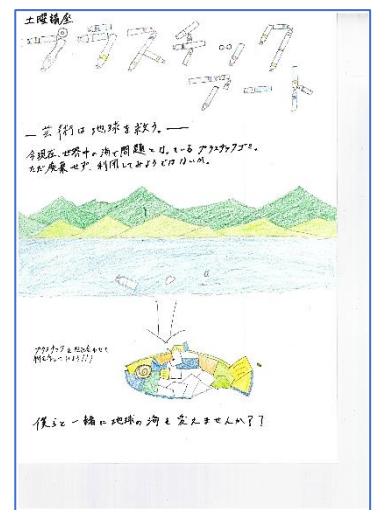
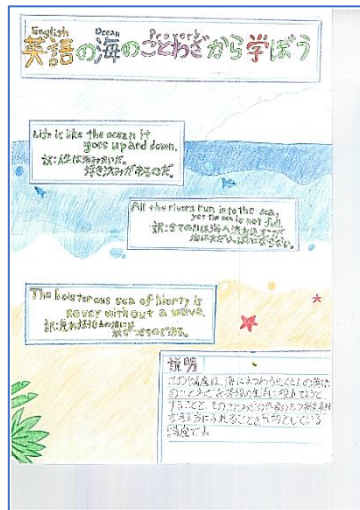
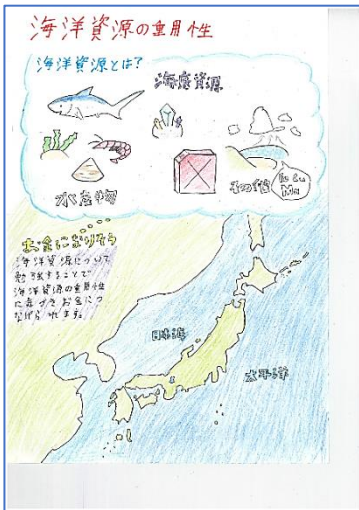
3-2. 実践報告

3-2-1. 中学1年『海に関する土曜講座』を企画する』

- (1)文献やインターネットから情報収集する基本方法をしっかり学ばせた。図書館備え付けの「情報カード」を利用させた。
- (2)調査時間や企画書作成時間を十分にとって、生徒間で対話をさせ内容を深めさせた。
- (3)広告ポスターを作成させ、視覚化することで聞く側が分かりやすい発表になるように工夫してみた。
- (4)学校が海に近いという地の利を活かしてフィールドワークを実施した。また、海洋教育の12分野(海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より)に着目させてフィールドワークを行った。
- (5)各クラスから代表作品を選出し、学年大会を行い発表した。ポスターのデザインよりもプレゼンテーションに力点を置いた。

A. 生活・健康安全 暮らしと海のかかわりや災害など海の危険性とその対策に関すること	B. 観光・レジャー・スポーツ 海にかかわる余暇使用に関すること	C. 文化・芸術 海を題材や舞台にした文化や芸術に関すること	D. 歴史・民族 海に関わる歴史や民俗・宗教などに関すること
E. 地球 海洋や海とかかわる地球の仕組みに関すること	F. 物資 海の科学的な特性に関すること	G. 生命 海に生きる生物に関すること	H. 環境・循環 海の循環や物質の循環システムに関すること
I. 資源エネルギー 海からもたらされる資源やエネルギーとその利用に関すること	J. 経済・産業 海を利用した経済活動に関すること	K. 管理 海の持続的な開発のために必要な管理に関すること	L. 国際 海をめぐる世界の国々の協調に関すること

<生徒の作品>



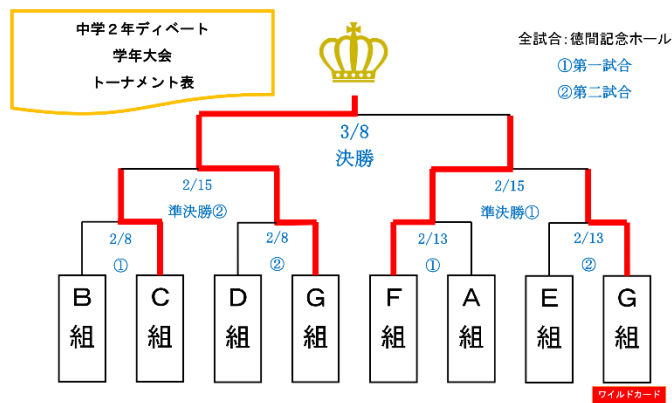
3-2-2. 中学2年 ディベート 『日本の水族館及び動物園を廃止するべきである。』 是か非か。」

- (1)文献やインターネットから情報収集する基本方法をしっかり学ばせた。図書館備え付けの「情報カード」を利用させた。
- (2)調査時間や企画書作成時間を十分にとって、生徒間で対話をさせ内容を深めさせた。
- (3)一つのチームが肯定側、否定側の両方の情報を収集し、分析することで多面的なものの見方を養うことができた。
- (4)プレゼンテーション時のパフォーマンス力だけでなく、集めたデータの量やその活用に力点を置いた。
- (5)各クラスから代表チームを選出し、トーナメントの学年大会を行った。

<生徒の様子 (クラス内予選)>



<生徒の様子 (学年大会)>



3-3. 今後の展望

本校の特色である「海洋教育」は、これまで体験的なヨット実習や遠泳実習を行ってきた。この2つ体験的な授業に加え、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターと連携し、海に関する知識や学問の面白さ、海のスケールの大きさを知り、学習に対する視野を広げ探究心を育てる学びを、『海洋人間学』×『総合学習』として、探究学習のプロセスを用いながら中学全体で実践している。

2023年度は下表のように中学3年生においても「海」を題材にしたプログラムを実践しており、探究的な学びの機会を拡大させている。

学年	内容	実施時期
中学1年	『海に関する土曜講座』を企画する」	10月～3月
中学2年	ディベート「『日本の水族館及び動物園を廃止するべきである。』是か非か。」	10月～3月
中学3年	『理想の水族館』を企画する」(2023年度実践中)	4月～10月(予定)